モノづくり
NIKKAN KOGYO MONODZUKURI
2月9日・水曜日 2022年（令和4年）
日刊工業新聞

進む 健康経営

「社員を大切に」創業精神浸透

大成HD

大成ホールディングス（東京都葛飾区、徳倉俊一社長）とグループの事業会社は、2020年度に私傷病による1カ月以上の療養者数でゼロを達成した。全従業員は約160人で、21年度は現在のところ1人と引き続き低水準で推移する。健康経営を掲げるだけではなく、数々の施策を実行した結果で、その原動力は「創業の精神」にある。

創業の精神は1963年に策定した経営理念と現在に至るまでの企業文化を融合してまとめたものだ。その中には「社員一人ひとりを大切に」と明記してある。この創業の精神を毎朝唱和し、従業員は「ほぼ暗記している」（籾山裕之総務統括部長）。

そのため社員一人ひとりを大切にするという精神が浸透し、自然に健康経営という形になった。例えば上司と部下が1対1で面談する制度なども自然的に発生したもので、健康状態を把握するとともに、相談できる環境をつくることでメンタル面もサポートする。

同社の稲生豊人専務は、事業会社である大成ファインケミカル（千葉県旭市）と、大成化工（同成田市）の社長も兼務しており、従業員の誕生日には一人ひとりに手紙と菓子を手渡す。管理者やリーダーとともに、トップ自らが従業員に配慮していることが、健康経営を根付かせるポイントになるという。

中小企業ならではの理由もあり、籾山部長は「従業員の多い企業ではないため、1人の欠員の影響が大きい。他の従業員や取引先などステークホルダー（利害関係者）に負担をかけるわけにはいかない」と説明する。

このような方針もあり「ステークホルダーを守らなければいけない」（籾山部長）と、新型コロナウイルス感染症への対応も迅速だった。通勤のための社有車貸し出しや駐車場代補助、完全テレワーク、家族を含めた抗原検査キットの配布などは現在も継続する。

創業の精神を大切にすることから生まれた健康経営でステークホルダーを守る。

（編集委員・中沖泰雄）

毎朝「創業の精神」を唱和する（大成HD提供）